

【柱2:くらし】

乳幼児期から高齢期まですべての市民の人権が守られた中で、充実した保健・医療・福祉の社会資源がもたらす安心の環境を維持しつつ、家庭や地域の互いに支えあう力をより一層強めることで、誰もが住み慣れた地域でいきいきとその人らしく暮らしていけるまちを築いていきます。

■ 分野別の達成状況

施策の達成状況をみると3点が最も高く、6施策となっています。「セーフティ・ネットの堅持」が2.5点で最も低くなっています。

分野	5年後の目標	施策	R7達成見込
分野5 保健・医療	健康づくりの意識と行動が浸透し、市内で安心して医療を受けることができ、市民の健康寿命が延伸している。	1. 健康づくりの促進	3点
		2. 医療体制の確保	3点
分野6 高齢福祉・障がい福祉	介護が必要になっても、障がいがあっても、誰もが住み慣れた地域で、その人らしく暮らしている。	1. 元気に齢を重ねられるための環境の充実	3点
		2. 介護等への支援の充実	3点
		3. 障がいのある人等への支援の充実	2.6点
分野7 地域福祉・生活の安定	地域での支えあい・助けあいと公助が連携し、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができる。	1. 地域福祉の向上	2.67点
		2. 生活の安定の確保	3点
分野8 社会保障	年金と医療・介護保険の制度が円滑に運用され、生活困窮の状態の人に適切な保護と自立支援が行われている。	1. セーフティ・ネットの堅持	2.5点
		2. 年金・保険制度の適正運用	3点

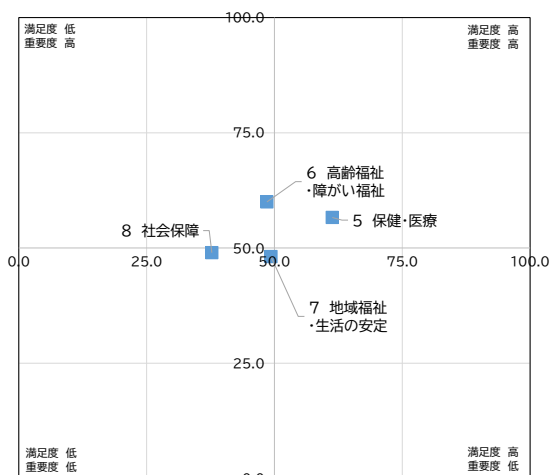
※ 達成状況は実施計画事業ごとの目標の達成状況について、「達成」3点「8割程度」2点「5割程度」1点「2割以下」0点、として加算し、その平均を施策の点数として算定。

■ 分野別の満足度と重要（市民アンケート調査結果）

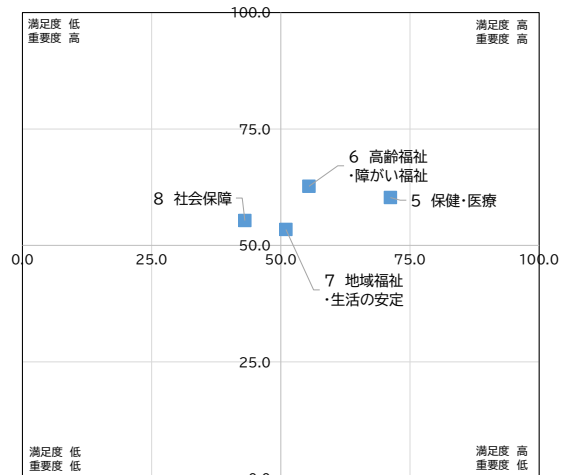
満足度・重要度のプロットをみると、「高齢福祉・障がい福祉」「保健・医療」「地域福祉・生活の安定」は満足度・重要度ともに高くなっています。一方で「社会保障」は重要度が高く、満足度が低くなっています。前回調査と比較して、各分野の相対的な位置は変化ないものの、全体として、満足度が高くなっています。

《満足度・重要度のプロット比較》

前回調査（令和元年度）



今回調査



※ 前回調査との比較のため、重要度、満足度のそれぞれの加重平均の平均値を 50 として、各政策分野の加重平均値を置き換えている。

■ 施策評価

【分野5 保健・医療】

施策	施策1 健康づくりの促進	施策2 医療体制の確保		
5年後の目標	「自分の健康は自分で守る」という意識と行動が浸透し、疾病の予防と早期発見、治療につながって、市民の健康寿命が延伸している。	かかりつけ医と総合医療機関等との連携のもと、乙訓圏域での医療体制が確保され、市民が適正に利用している。		
実施計画事業	① 健康づくり教育事業 健康マイレージ事業を継続実施し、毎年 500 名以上の新規参加者を獲得しました。健康づくりイベント「まるごとヘルシーフェスタ」の参加者は年々増加しました。 ② 成老人健康診査・がん検診事業 市公式 LINE やデジタルサイネージを活用した予防接種やがん検診の受診啓発、成人健康診査・がん検診事業 子宮頸がん検診や乳がん検診の無料クーポンの送付とスマートフォンからの予約促進により受診率が向上しました。新規事業として胃内視鏡検診を導入し、オンライン申請率は 71%に達しました。乳がん検診の予約システムを LINE で提供し、105%の達成率を記録しました。 ② 食育推進事業 「学べる食育ひろば」を Web 配信やイベントの一環として実施し、食育情報を年間を通して発信しました。「ながおかきょうの料理レシピコンテスト」や「LIVE クッキング」を実施し、親子で参加できる機会を提供しました。	① 地域医療連携強化事業 乙訓休日応急診療所を運営、在宅外科当番医制事業の実施により、初期救急医療体制を維持しました。二次救急医療体制を確保するため、京都市が実施する病院群輪番制病院運営事業に参画しています。 令和 4 年 6 月に京都済生会病院に新築移転しました。公的病院への支援として、財政的な支援を行いました。また、当病院が担っている周産期・小児・救急医療等に対し、運営助成補助金を交付し、不採算医療に係る地域医療体制を確保しました。 ② 公的病院への支援事業（R4 未廃止） 京都済生会病院に国庫補助及び市の地域医療機能確保事業補助金を活用した財政的支援を行いました。令和 4 年 6 月に新築移転し、中核病院として機能を果たすとともに、「患者総合サポートセンター」を設置するなどにより、令和 3 年度と比較して入院・外来患者が増加しています。		
市民意見 (アンケート調査等)	- 診療所、病院とも充実していてとても満足している。【関連：医療体制の確保】 - 各種がん検診の申し込みの案内が長岡京は少し分かりにくいと思う。ハガキ等を活用してはどうか。 - 市民の健康維持のため、（周知のため）検査のチケットを発行してはどうか。	- 病院、医院へアクセスするバスがもう少しあるとよい。【関連：交通ネットワークの充実】 - 市内の小児科医は高齢の方が多く、今後小児科が維持できるのか不安に思う。 - いつでも必要な時は受け入れてもらえる医師の体制を切望します。 - 唯一の拠点病院は、デジタル化が進みすぎていて、かえって受診しづらい。 - 高校生まで医療補助をしてもらいたい。【関連：子育てにかかる経済的負担の軽減】 - 災害時に備えて、病院の活用方法などのお知らせがあればと思う。		

【分野6 高齢福祉・障がい福祉】

施策	施策1 元気に齢を重ねられるための環境の充実	施策2 介護等への支援の充実	施策3 障がいのある人等への支援の充実	
5年後の目標	介護予防の取り組みが進み、生きがいや喜びを感じられる社会参加の機会が充実している。	認知症や介護等への理解が進み、介護が必要な人や家族が住み慣れた地域で最期まで安心して生活できている。	障がいがあってもなくても、また、障がいが重くても、すべての人が自分らしく地域で生活することができる。	
実施計画事業	① 一般介護予防事業 新型コロナウイルス感染防止を図り、令和3年度は、長寿健診事後教室として介護予防教室の新設、小規模な地域での教室等を実施しました。令和4年度はさらに多職種連携によるフレイル予防の啓発をしました。令和5年度はコロナ禍を経て介護予防サロンが再び活発化し、体操、レクリエーション、茶話会などにより参加者が増加しました。また、新規団体への介護予防教室開催を行うために単位老人クラブや団体へ積極的に出向き、教室開催の趣旨等を説明しました。 ② （仮称）介護予防センター竹寿苑整備事業 老人福祉センター竹寿苑の令和6年度の供用開始に向けて、建設工事を進めています。 ③ 介護予防・生活支援サービス事業 自分でできる介護予防の方法を学ぶ自分サポーターと、生活支援の担い手養成を目的とした地域お助けサポーターの養成講座を行いました。地域お助けサポーターは介護保険サービス外のニーズに対応し、活動しています。	① 認知症施策総合推進事業 認知症高齢者の行方不明対策として事前登録を促進しました。認知症対応型カフェを継続実施しました。啓発活動として映画上映会や講演会、VR体験や音楽を取り入れたイベントを実施しました。 ② 民間老人福祉施設等整備・運営支援事業 民間老人ホーム等施設振興補助金を交付し、事業所が安定かつ適切に運営できるよう支援しました。地域密着型特別養護老人ホームの整備を完了し、施設整備補助金を交付しました。短期入所生活介護事業所の居室を特別養護老人ホームの居室へ転換し、定員を増加させました。 ③ 介護人材育成事業 介護従事者のインタビューを広報紙に掲載し、福祉の魅力を発信しました。就職フェアを実施し、離職防止・定着促進のための研修を行いました。介護職のイメージアップを図り、就労支援や離職防止のための取り組みを継続しました。	① 障がい者地域相談支援事業 相談支援事業所に委託し、障がいの種別に応じた適切な相談体制の充実・維持を図りました。精神障がい者やその家族が差別的取扱いや合理的配慮の不提供を受けた際の相談窓口の運営、市民を対象とした身体障がい者相談員（ピアカウンセラー）や知的障がい者相談員（保護者）による心身障がい者相談を実施しました。 ② 障がい者の社会参加促進事業 外出困難な心身障がい者の移動を支援するため、タクシー料金等の一部を助成しました。移動支援事業も実施しました。 ③ 障がい者雇用・就労促進事業 市役所庁舎内で障がい者施設製品販売会「おいでよ♪ほっこりんぐ」を開催しました。 ④ 福祉支援者の人材確保事業 手話教室や要約筆記講座、点訳奉仕員養成講座を実施し、福祉支援者の人材育成を図りました。就職フェアを開催し、福祉職の魅力を発信しました。 ⑤ 精神障がい者への福祉医療制度導入 京都府と市町村で構成されるワーキンググループ会議を行い、令和6年8月に制度開始が決定し、実施時期やシステム変更の調整を行いました。	
市民意見 (アンケート調査等)	・ 高齢者のバス代無料を検討してはどうか。【関連：交通ネットワークの充実】 ・ 特養ホームに家族の負担を少しでも軽減できる様なシステムで入居サポートしてほしい。	・ 高齢福祉施設の案内や説明がもっとわかりやすくなるとよい。 ・ 親の介護や支援について見通しを持てるような情報発信や相談しやすい場の設定を希望する。 ・ 高齢者への施策が不十分。入りたい施設を利用できないので老後が心配である。 ・ 初めて地域包括センターを利用したが、要望をきちんときいて、対応して下さったので嬉しかったし安心した。	・ 障害がある子のリハビリができる施設がない。 ・ 障害福祉の施設、業者が少ないと思う。 ・ 障害福祉サービスの利用時に必要となるサービス等利用計画を利用者本人でも作れるようにしてほしい。現状長岡京市では相談支援所が人手不足等で利用できず高槻市や京都市へ依頼せざるを得ない。 ・ 障害者手帳や自立支援医療の受給者証の発行に時間がかかりすぎる。	

【分野7 地域福祉・生活の安定】					【分野8 社会保障】				
施策	施策1 地域福祉の向上	施策2 生活の安定の確保	施策1 セーフティ・ネットの堅持	施策2 年金・保険制度の適正運用					
5年後の目標	住む・働く・育むといった日常生活に必要な安心を守るため、家庭や地域の互いに支えあう力が強まっている。				年金、医療保険、介護保険の各制度が運用されて、市民の健康と生活の安心が守られている。				
実施計画事業	① 地域福祉活動支援事業 地域で福祉ボランティア活動を行う NPO 法人や任意団体に対して助成金を交付し、活動の継続を支援しました。民生児童委員活動の周知を図るために広報紙やホームページで啓発記事を掲載するとともに、民生児童委員活動の負担軽減と効率化に向け、活動の ICT 化なども検討しています。	① とりこぼさない支援体制整備事業 「福祉なんでも相談室」を設置し、専門職による相談や伴走支援を行いました。適宜、「くらし連携担当」とも連携し、多機関協働事業と連動することで、教職員 0B による学校訪問など、教育分野との連携した支援ができました。アウトリーチ支援では、自立相談支援機関としての機能強化、ひきこもり支援の強化、とりこぼさない支援体制のアウトリーチ機能との一体的な支援を行っています。	① 生活困窮者自立支援事業 福祉なんでも相談室を自立相談支援機関として位置づけ、課題解決が必要な相談者には個別プランを作成し伴走支援を行っています。市のひきこもり相談窓口を明確化し、京都府のひきこもり訪問応援「チーム絆」地域推進事業受託団体と連携し、専門相談会の実施や、福祉なんでも相談室での相談支援やアウトリーチ支援を行いました。 継続した伴走支援が必要な場合に個別にプランを作成しています。就職困難者には一般就労に向けた就労訓練や生活環境の整備が優先される場合もあり、就労と生活支援等の包括的な相談支援を行い、就労に向けた支援を行いました。	① 年金相談事業 年金制度に精通した年金指導員を配置し、年金相談に応じました。年金事務所の可搬型窓口装置を活用し、サービス向上を図りました。被保険者の年金受給権の確保に努め、保険料の産前・産後減免申請など、市独自の勧奨通知を送付しました。					
	② きずなと安心の地域づくり応援事業 令和5年度から新たに「とりこぼさない（重層的）支援体制整備事業」を開始し、庁内や各関係機関へ事業を周知し、主に地域づくりや参加支援について協力依頼をしました。市内10小学校区に「きずなコーディネーター」と「生活支援コーディネーター」を配置し、小学校区単位の連携組織を核として地域における既存の組織の活性化、市民が自主的に活動できる体制づくりを支援しました。	② 成年後見制度利用促進体制整備事業 令和3年度に「長岡京市成年後見制度利用促進事業実施要綱」を策定し、市内関係機関と専門職団体との「合同勉強会」を法に基づく「協議会」へ移行しました。中核機関を中心に協議会を運営し、地域連携ネットワークの構築を図っています。また、定期的に専門職団体による専門相談の実施、制度の利用促進に向けた普及啓発を実施しました。	② 生活の保護・自立促進事業 保護係に専任の就労支援員を配置し、個別面談や訪問を通じて受給者に対する就労支援を実施しました。稼働能力判定会議を定期的に開催し、就労支援対象者を選定しました。ハローワークと連携して個別支援計画を作成し、フォローアップを実施しました。	② 国保・介護・後期高齢者医療 国保・介護・後期高齢者医療 国民健康保険料の適正賦課と収納率の維持・向上対策を実施しました。特定健診の受診勧奨や特定保健指導を行いました。介護保険では、ケアプラン点検を実施し、給付適正化を図りました。後期高齢者医療では、保険料の算定と新たに被保険者となる方に被保険者証の交付を行い、滞納者への督促・催告を実施しました。					
市民意見 (アンケート調査等)	・ 地区によって高齢化、空き家が進み、子どもや高齢者のいる世帯で対応している。市に相談しても解決策も出ず、今後を不安に思う。 ・ ボランティア精神を市民が育めるシステムの構築が必要だと思う。個人主義になり、共生意識の低下を自治体として向上させる仕組みづくりが必要だと思う。【関連：自治活動の促進】				・ 生活困窮の状況をきちんと把握し、改善方向を示すことが大事ではないか。特にシングルマザーの状況や子供の貧困は放置できない。 ・ 自立支援をもっと積極的に行なってほしい。				